

2月号

不本意な

はずの

謙遜へ

うなづき返した

間の悪さ

2月号

まじ？ の

はてなは

どうやら

疑問符では

ないようだ

2月号

無用であることが

大切なものもある

期限切れの

発炎筒

など

3月号

もつと

大きなリボンを

着けたそうなの

顔が並ぶ

壇上

3月号

ラッシュを過ぎた

車内は

ねこ背の

文庫本派と

携帯メール派

3月号

この冬を

越える

西病棟321号室の

明りと

山茶花と

4月号

禁じられた

秘めごとのよう

墓前に

しやがみ

線香を点す

4月号

ファインダーが

捉えた

雪野原の

唯一の汚点だ

高層マンションめ

4月号

言い訳を

繕いながら

影も

重たげに

ついてくる

5月号

ひと舐めして

ページを

めくりたくもなる

干乾びた指に

いらつく

5月号

脱ぐ下着から

フェロモンを

失った

体臭が

過ぎる

5月号

無風の

時を

得て

枝垂れ梅の

呼気

6月号

田おこしで

鼓動をはじめた

黒土が

水と早苗を

待ち受ける

6月号

若葉に

縁取られて

くつきり

花水木の

白

6月号

花の精が

杖を振ったか

息を吐くのが

もつたいない

うららかな朝

8月号

ほら

そこを左へ折れると

中学3年間で

過した借家が

・・ない

ぶつ

と

呟いて

スプレー缶が

尽きる

8月号

一瞬の間も

罪なのか

A子B子C子D子の

終点まで続いた

しゃべりまくり

9月号

8月号

9月号

頂に

駆け上がる

法螺貝の音

山開きの列が

追う

自分も同じ

顔かもしれない

開かずの踏切りの

向こう側に

ひとり

今が最高

と

今朝も

あじさいに

声かけ

10
月号

9
月号

貨物列車が

延々と

引っぱって来た

数秒分の

涼風

この

花火の

ためにだけ

在る

マツチ

10
月号

10
月号

背広が孕んだ

冷気と外気の

せめぎ合いは

改札口を出て

数歩まで

11月号

顔だけじゃない

声にも

歳相応の

皺が

できていた

11月号

台風一過

裏返った

蓮の葉が

弾みをつけて

起き上がる

11月号

釣った

魚に

餌を

もらって

居る

12月号

履くときは左から

脱ぐときは右から

ズボンが

均衡を

とつてくれる

縦ジワが
そろった
そろそろ
繰り言の
はじまり

12
月号